

野球 夢へ二刀流 保育

春季リーグで安打を放つ斎藤さん。5月2日、仙台市青葉区の東北福祉大球場



仙台六大学野球で活躍する仙台大3年の斎藤陽さん(21)は、体育学科がほとんどを占める約200人の部員で唯一、子ども運動教育学科に所属する。プロ野球選手の夢を追いながら、セカンドキャリアを見据えて保育を学んでいる。



保育実習で絵本の読み聞かせをする斎藤さん。6月22日、宮城県角田市・中島保育所

仙台大野球部・斎藤さん 試合に実習に奮闘中

長い目で将来描く

6月22日、宮城県角田市・中島保育所(園児14人)であった保育実習。3歳児クラスでボール遊びをしたり、夏祭りで使うお面作りを手伝ったりした。「先週は0歳から2歳までを担当していた。年齢が上がると、できることがどんどん増えて驚いた。『ひなた先生』と子どもたちが来てくれるのがうれしくて、あっという間に時間が過ぎる」と充実感をにじませる。

角田市出身。仙台育英高校時代は2年から4番を務め、その夏の甲子園で優勝、3年夏も準優勝を経験した。県外の強豪大学からも声はかかった。仙台大を選んだのは、保育を学べる学科があったから。元々子どもが好きで、仕事にしたいと思っていた。

子ども運動教育学科は、幼児体育や運動遊びを教えられる保育者の育成を目指す。斎藤さんは現在、週15コマを受講し、卒業までに幼稚園教諭や保育士、幼児体育指導員の資格取得を予定している。「近年は外遊びが少なく、子どもの投げる力や跳躍力が落ちていくと学んだ。自分の得意分野を生かし、子どもに体を動かす楽しさを知ってほしい」と話す。

野球選手としては、高校時代から広角に低い打球を打ち分けられる能力を買われてきた。大学では長打が打てるようスイング改善や体づくりに取り組んできた。授業後、午後8時ごろ

まで練習。その後はジムでウエイトトレーニングに励む。スイングスピードは高校から15%上がって最高145kmに。今春のリーグ戦では11安打中、長打が6本。そのうち1本は本塁打と、徐々に結果が出てきた。

来年のドラフト指名を目指す。「野球はできるどころまで続けたい。限界までプレーしてから(保育の)新しい夢に向かいたい」。長い目で将来を描いている。(北村早智里)